



## 地域と『つながり合う』授業実践

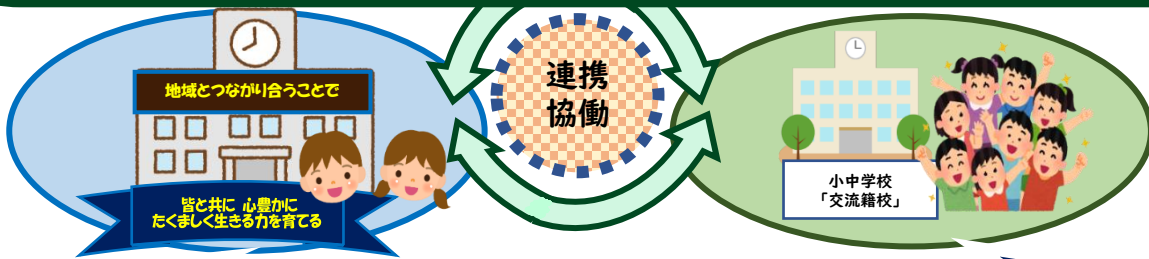
### 2 居住地校との交流 『交流籍』を活用した交流及び共同学習

小学部 : 6学生

修学旅行の様子を新聞にして、交流籍校に送りました。

昨年度までは学校での行事など学習したことを新聞やDVDで交換し合っていました。

今年度は交流籍校と本校ともに修学旅行という共通の行事があるので、それを活用して伝えようかと、児童と相談して決めました。旅行先で自分が楽しみにしていた事や、訪れた場所、食べたものなどの写真を使って紹介したら、お互い興味を持って話題を共有できるのではないかと思います。



#### 児童生徒にとっての価値

交流籍校の仲間に、本校児童の良さや頑張りを知ってもらえます。交流籍校と交流し続けることで、互いに顔見知りとなり、町を歩いているときなどに挨拶や会話を交わせるようになります。

#### 地域にとっての価値

交流籍校の児童が、本校の児童に優しく声を掛けようと思ったり、どんなことに困っているのか知ろうしたりする等、豊かな心を育てることができます。また、障害について学ぶきっかけになります。

### 『つながり合う』POINT! (地域支援連携課から)

- ・小学校卒業学年だからこそできる交流として、お互いの修学旅行を共通の話題とすることで、共有する内容に広がりをもたせました。共通の話題は、やりとりの発展につながるかもしれません。授業での学びを交流籍校に届けるための取組により、地域と『つながり合う』授業実践を実現しました。
- ・交流は、お互いの心を豊かにしてくれます。交流先の子供たちが、車椅子の子供たちの生活にも興味・関心をもち、助け合いたいという温かい気持ちになってくれると思います。そして、関係を育み続けることで、本校の児童の良さに気付いたり、障害について知ったりする機会になることを期待します。
- ・交流籍を活用した交流及び共同学習により、子供たちが、言葉を掛け合って同じ地域で生きている仲間であるということを確認することができると嬉しいです。